

JICA草の根技術協力事業（支援型）
沖縄・カンボジア博物館から発信する平和教育普及プロジェクト
（2016年7月～2017年6月 1年間）

カウンターパート(C/P): 国立トゥール・スレン虐殺博物館(教育普及チーム)
協力機関: 沖縄県平和祈念資料館



国立トゥール・スレン虐殺博物館(TSGM)は、元々は高校であったが、ポル・ポト政権時(1975年～1979年)に約15,000人の自国民が囚人として収容され、過酷な拷問がなされた場所である。

現在は、歴史博物館として、この場所で抹殺された人々の記憶を継承し、教育の場として役割を果たしている。

本プロジェクトは、同館の教育普及チームの「平和講話スキル」の向上を図ることを目標として実施されている。

プロジェクト目標

博物館職員(教育普及チーム)に対して「ワークノート」をより計画的、効果的に活用するための技能が育成されることにより、博物館における平和教育の多様な手法が確立される。



教育普及チームのとの意見交換



教育普及チームが地元の学生に平和講話をしている様子
カンボジアの若者はほとんど「ポル・ポト政権」のころの歴史を知らない。



沖縄や広島で平和教育の手法を学ぶ

市民参加:

プロジェクト期間中に沖縄県内の教員を派遣し、沖縄の平和教育の広がりを考える



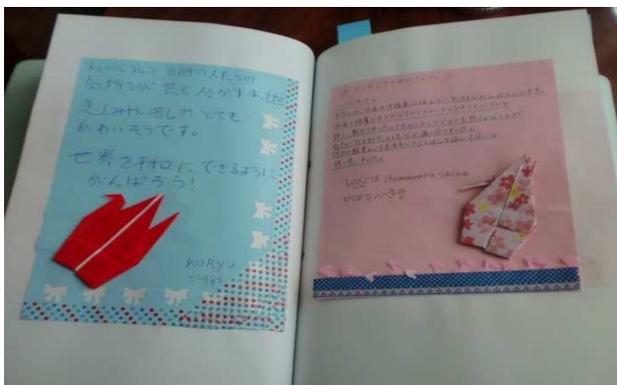
教育現場の視察、現地の高校生とのワークショップ（2016年8月 プノンペン）



八重山商工高等学校生徒へ「ピースメッセージ」
を書く生徒たち（2016年8月）



派遣教員による公開授業の様子
（2016年12月 沖縄県立八重山商工高等学校）



八重山商工生徒のからのお返しのピースメッセージを届けた。(2017年3月 プノンペン)

